

## 『虞美人草』 甲野家のネーミング

Junko Higasa 2013.11.29

欽吾と藤尾は異母兄妹である。そして甲野家の正当継承者は欽吾で、それを狙うのは藤尾である。それを踏まえた上で甲野家を見ると、「甲」は平家蟹の甲羅で「野」は吉野。「藤」は藤原家で、それにつながる「尾」は子孫。やはり桓武天皇の流れから政権を奪おうとする藤原家という構図になる。平家蟹の甲羅の溝は人間の憤怒の表情に似ているそうだが、それは藤尾の御家乗っ取りを憤る欽吾かもしれない。

そして時を経て、吉野から関東に来れば「甲」はやはり平家蟹の甲羅だが、今度の「野」は関東平野。すなわち「いざ、鎌倉！」の鎌倉街道。鎌倉といえば桓武平氏の末裔である北条家という構図になる。

『虞美人草』第1章で、叡山には『昔ながらの翠りを年ごとに黒く曇む』森があり、その半空に聳える伝教大師以来の杉がある。宗近君と二人で山を登っているのに『甲野さんはただ一人この杉の下を通る』桓武平氏の末裔であり、宗教観と相通ずる哲学を修める欽吾の唯一人の戦いは、まさにここから始まったのである。戦う相手は黒い森のような野望で平氏の中に食い入り、その血を分けた藤原家の女である。

最後に欽吾は北条家の逆着色家紋を描き、決戦に挑む。小野さんという防人を駆り出して対抗した藤尾は戦いに敗れて没する。防人をようやく元の環境へ返したところで、だらだら小説と自らうんざりした漱石も、自分の日常に帰ることができたのだろう。